

感動一点の場

『馬とゴンパ』
1991年 小川原 脩 画



赤みがかった黄色い大地を背景に大きな馬が描かれています。馬の足元から向こうへと続く丘の上には角張った白い建物が並んでいます。淡い灰色で塗られた空にポッカリ浮かぶ白い雲が見えます。絵の具を薄く塗り重ねることでキャンバスの目地が生かされパステル画のような趣の作品となっています。

1983（昭和58）年の8月、小川原脩はインド領・西チベットのラダックを訪れました。そこは標高約3500mの高地で、照りつける太陽の光と希薄な空気は小川原にとって過酷な場所でしたが、その滞在は古いチベット文化にふれる貴重な体験となりました。作品に描かれている建物はゴンパと呼ばれるチベット仏教の寺院で、晩年の小川原作品のモチーフとして多く描かれています。

さてもう一度馬に目をやると、首を右下方にぐりと曲げているのがわかります。このポーズの馬は1960年代から小川原作品に登場している農耕馬にとってもよく似ています。遙か遠くの地で見た風景をテーマにした作品ではありますが、小川原の記憶に刻まれた原風景をキャンバス上に再構成し、独自の世界観を作りあげたのです。

文：金澤 逸子（小川原脩記念美術館 学芸スタッフ）

ふるさと探訪

舟を掘る鳥 -クマゲラ-

515回

キツツキが木に開けた穴は、冬の森ではよく目立ちます。その中でも体長47cmに達する日本最大のキツツキ、クマゲラが開ける穴（食痕）は、他のキツツキよりもはるかに大きく縦長で、ひと際目を引きまします。このことからクマゲラは、アイヌの人々からチプタチカプ（舟を掘る鳥）とも呼ばれました。

クマゲラの狙いは、木の中にあるムネアカオオアリというアリです。働きアリで12cmほどにもなる日本最大級のこのアリは、クマゲラの主食になっています。ムネアカオオアリは立ち枯れ木に好んで営巣し、コロニーの規模は数百～数千匹、高さは時に地上4mに達することもあります。多雪地域では多くの生き物が数ヶ月間地表のエサにありつけなくなる中、クマゲラにとって、積雪より高い位置に営巣するムネアカオオアリは欠かせないエサ資源です。

ちなみに、1ペアのクマゲラが必要とする行動圏は、少なくとも1,000m前後とされています（エスコンフィールドHOKKAIDOが200個分）。彼らが暮らすには、自然度の高い広大な森が必要なのです。



▲クマゲラが開けた穴（食痕）



▲ムネアカオオアリのコロニー（カラマツ）

文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員）

展覧会のお知らせ

■第1展示室

小島英一展「B. M. WOMAN」

岩内町出身・在住で独創的な人体の表現を追求する画家・小島英一 の作品を紹介します。

会期：開催中～3月29日(日)

■第2展示室

小川原脩展「遙かなるイマージュ」

1988年に道立近代美術館で開催された回顧展のタイトルで、小川原の創作姿勢を表現しています。社会や自らを投影した動物モチーフの作品、小川原の原風景と重なるアジアの作品群も紹介します。

会期：開催中～3月29日(日)

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

映像で見る「東京国立博物館③」

修復作業や本館以外の建物に収蔵されている名品を鑑賞します。

日時：3月21日（土） 14時～14時40分

会場：映像ルーム（予約不要・無料）

講師：金澤逸子（学芸スタッフ）

■ロビー・ギャラリー

冬期間に「ロビー・ギャラリー」（町内や近隣町村で創作活動を行う作家・愛好家の展示）を開催します。詳細は町HPをご覧ください

展示者：山川由紀子さん（画家）「キョウビンボウ展」

日時：3月2日(月)～15日(日)

展示者：武井ゆみ子さん（鳥絵作家）「武井ゆみ子展」

日時：3月18日(水)～29日(日) 会場：ロビー（無料）



倶知安風土館のお知らせ

古い地図や町並み写真を探しています

倶知安風土館では、町の移り変わりを記録し未来へ伝えるため、古い市街地図・住宅地図などの地図資料や、町並みが写っている写真の収集を行っています。自宅や職場に眠っている地図や写真がありましたらお知らせください。寄贈のほか、一時的にお借りして複写後にご返却することも可能です。



ミュージアム 通信

小川原脩記念美術館 ☎ 21-4141

観覧料：一般 500円 [400円]

高校生 300円 [200円]

小中学生 100円 [50円]

倶知安風土館 ☎ 22-6631

観覧料：一般 200円 [100円]

高校生以下、美術館観覧者無料

※年間パスポート500円(発行日より1年有効)

開館時間は9時～17時(最終入館16時30分)

※[]内は10名以上の団体料金

3月の休館日 毎週火曜日

冬もいろいろやっています！

倶知安風土館では例年、百年の森ファンクラブ主催のもと、地域の自然について学ぶ勉強会「木の曜日講座」を開催しています。3月は5日、12日、19日の3日間で開催する予定ですので、奮ってご参加ください。倶知安の森のことや身近な外来種のことなど、講師の方々から楽しいお話を聞くことができます。

また、小川原脩記念美術館では「小川原脩展 遙かなるイマージュ」を開催しています。小川原脩の70年におよぶ画業を辿る展覧会で、私は1979年に描かれた「森の入り口の白い樹」がお気に入りです。白樺の木の上にいるリスを恨めしそうに眺めていると思われるキツネの姿がとても可愛らしく表現されています。

そして、現在美術館では4月からの開催を予定している展覧会「神田日勝記念美術館×小川原脩記念美術館所蔵作品交換展 二人の歩んだ道」に向けて準備を進めているところです。十勝の鹿追町から貴重な作品が倶知安町にやってきます！詳しくは来月に・・・

館長 高橋 淳之